

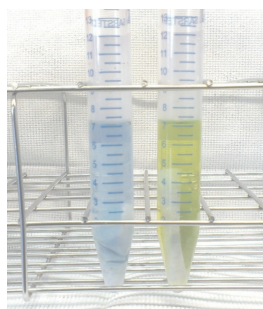
アオコ情報の発信

～ アオコの発生状況を調査して、今後の発生を予測する ～

平成23年のアオコの大発生を受けて、霞ヶ浦環境科学センターでは、夏期に、「アオコ情報」を発信しています。「アオコ情報」では、アオコの現在の発生状況を現地調査により把握し、今後の気象条件等を考慮して発生予測を行っています。

アオコの量を把握するには

アオコ情報では、アオコの現存量をフィコシアニン濃度で表しています。フィコシアニンとは、植物プランクトンの中でも藍藻類に含まれている青色の色素です。夏季の霞ヶ浦では、フィコシアニンの量は藍藻類の量と比例関係があります。ですから、フィコシアニンを測れば、アオコの原因となる藍藻類のおおよその量を把握できます。



左:フィコシアニン
右:クロロフィル

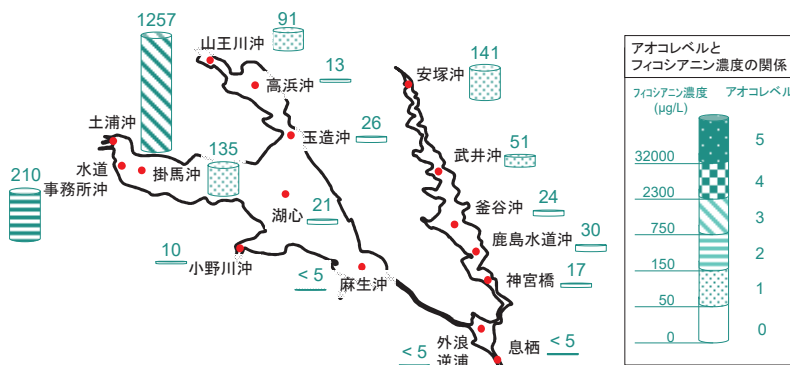


H24年度に土浦港で見られたアオコ

「アオコ情報」の発信

「アオコ情報」は、アオコが発生しやすい6月から9月の間、1か月に1回程度の頻度で、アオコの回収などの対策をする国・県・市に提供しています。また、センターのホームページでも公表しているので、誰でも見ることができます。

アオコ情報には、湖内地点の水質調査結果と、アオコの発生の予測が掲載されています。アオコの発生の予測は、水質調査結果のほか、既往研究と気象庁の気象予報などに基づいています。



R6年8月6日にアオコ情報で発表された地点ごとのフィコシアニン濃度(µg/L)

アオコの発生予測に挑戦しています

いつ、どこにアオコが発生するかが分かれば、アオコ対策がもっと速やかにできると期待されます。そこで、当センターでは、アオコの発生予測に挑戦しています。

アオコの発生には、日照や温度、風などの気象条件のほか、水中の栄養塩の量や湖底に沈んでいるアオコの量など、いろいろな条件が関係することがわかってきました。H29年度には、これらの知見をもとに、「アオコ予測システム」を開発しました。これは、過去のアオコ発生を学習し、気象庁の季節予報や現在の水質などから、数カ月先を予測するものです。予測結果は、「アオコ予報」として毎年5月にお知らせしています。

